6/30 2013

Japan Music Education Society **News Letter**

第52号 No. 52

日本音楽教育学会ニュースレター

目　次

1　日本音楽教育学会第 44 回大会（弘前大会）のお知らせ
1-1 第 44 回大会について 2
1-2 院生フォーラム発表者募集について 3
2　会員の声
2-1 東日本大震災チャリティ・コンサート　クルターグ作曲「言葉とはなに」福島初演..... 4
2-2 新刊紹介 幼児の集団的・創造的音楽活動に関する研究―応答性に着目した即興の展開―..... 5
2-3 新刊紹介　地域発信型の歌集『信州ふるさとの愛唱歌』 6
2-4 大韓民国の小学校と幼稚園の視察を通して 7
2-5 日本音楽知覚認知学会春季研究会に参加して 8
2-6 日本保育学会第 66 回大会に参加して..... 9
2-7 音楽教育史学会第 26 回大会に参加して..... 9
3　報告・ご案内
3-1 平成 25 年度第 1 回常任理事会報告 10
3-2 平成 25 年度第 1 回理事会報告 11
3-3 プロジェクト研究「社会へのまなざし，社会からのまなざし」..... 15
3-4 第 12 回音楽教育ゼミナール（立教ゼミナール）のご案内 16
3-5 編集委員会からの報告 17
3-6 選挙管理委員会からの報告..... 18
3-7 国際交流委員会からのお知らせ 18
3-8 学会賞審査委員会からの報告..... 18
4　事務局からのお知らせ..... 18
編集後記

1 日本音楽教育学会第 44 回大会（弘前大会）のお知らせ

1-1 第 44 回大会について

大会実行委員会委員長：今田　匡彦

平成 25(2013)年度の大会は，弘前大学で開催されます。東北では 13 年ぶりの開催となります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

１．会場：弘前大学教育学部，同創立 50 周年記念会館みちのくホール

（〒036-8560　青森県弘前市文京町 1）

２．日程：平成 25（2013）年 10 月 12 日（土）及び 10 月 13 日（日）

（仮スケジュール）
＊＝院生フォーラム

10 月 12 日（土）	8:45　9:30　12:30	13:30　15:00　15:15　17:45　18:00　19:00
	受付　研究発表Ⅰ	＊ 昼食　P 研・共同企画　基調講演＋シンポジウム　総会　懇親会
10 月 13 日（日）	8:30　9:00　12:30	13:30　15:00　15:15　16:45
	受付　研究発表Ⅱ	昼食　P 研・共同企画　共同企画 ワークショップ

３．参加費：
会員　　4,000 円（事前振込）・4,500 円（当日払い）
学生会員　2,000 円（事前振込）・2,500 円（当日払い）
臨時会員　5,000 円（当日受付にお申出ください）

４．プログラム：
＜基調講演・シンポジウム＞
“Weaving non-European Sound Practices into Music Education in Japan”
「世界のサウンドプラクティスに学ぶ音楽教育」
基調講演講師：Anita Prest (University of British Columbia, Canada)
パネリスト：Anita Prest
杉山祐子（生態人類学者，弘前大学教授）
司会・通訳：今田匡彦（弘前大学）

５．大会実行委員会委員：
今田匡彦（大会実行委員長），浅野清（大会実行副委員長），石出和也（事務局長），
武内裕明，寺田貴雄，小林美貴子，小野寿文，工藤雅之，前田美樹，木村貴子，川口明子，
橋本智明，杉田政夫

６．会場へのアクセス：

弘前大学まで：
☞ http://www.hirosaki-u.ac.jp/access/access.html
キャンパス内：
☞ http://www.hirosaki-u.ac.jp/access/map.pdf
創立 50 周年記念会館みちのくホール
☞ http://www.hirosaki-u.ac.jp/jimu/soumu/kaikan/michinoku-hall.html

1-2 院生フォーラム発表者募集について

弘前大学大学院　大坪　千佳

修士課程・博士課程の院生による「院生フォーラム」発表者募集中

日本音楽教育学会第 44 回大会（弘前大会）では，全国の大学院生によるポスターセッションを，下記の通り開催致します。「院生フォーラム」は大学院生が企画・実施しており，今年度は弘前大学の院生を中心に運営いたします。ポスターセッションとディスカッションによる活発な意見交換が期待されます。音，音楽，音楽教育をめぐるさまざまな発表をお寄せください。

1）期　　日：10 月 12 日（土）11:30〜13:30

2）会　　場：ポスターセッション → 教育学部 404，405，406
ディスカッション→ 教育学部 402（予定）

3）発表資格：申込時点で学会入会手続きを完了，会費を納入した大学院修士課程あるいは博士前期課程・後期課程に在籍する学生
＊入会については学会事務局にお問い合わせ下さい

4）発表形式：ポスター展示，テーマ・研究計画・概要等の質疑応答

5）申込方法：以下の項目を記載してメールでご送付下さい
・件名：「院生フォーラム申込（氏名）」
・本文：氏名，所属大学，テーマ
申込・問合せ先　☞ tikax322@yahoo.co.jp　大坪　千佳

6）申込締め切り：9 月 6 日（金）
参加者には，院生フォーラム設営等のお手伝いをお願いする場合がございますので，ご承知おき下さい。

☆★☆ひとことメモ☆★☆
今年度から，参加申込（事前振込）は，WEB 上での手続きとなります。手数料無しで 24 時間振込が可能になりました。振込方法の選択肢が増えましたので，どうぞご利用ください。事前振込をされた方には，参加章（お名前入りの名札）と領収書をご用意いたします。詳しくは，18〜19 頁の「事務局からのお知らせ」をご覧ください。

2 会員の声

2-1 東日本大震災チャリティ・コンサート　クルターグ作曲「言葉とはなに」福島初演

宮城教育大学名誉教授　降矢　美彌子

サミュエル・ベケット詩，クルターグ・ジュエルジュ作曲「言葉とはなに」日本語版　福島初演は，合唱：福島コダーイ合唱団，指揮・ピアノ：降矢美彌子，訳詩：高橋悠治・降矢美彌子，2013年3月24日伊達市ふるさと会館MDDホールで行われました。福島県伊達市は，特定避難勧奨地点に指定されるなど復興への厳しい取り組みを余儀なくされた地域です。福島第一原発では，今もって停電によって冷却装置が30時間も止まったり，放射能汚染水が何度も漏れ出すなど深刻な事故が収まらず，事故後2年余が経過しても，福島は今も放射能被害に苦しんでいます。この演奏は，震災後2年余を経過しても，復興とは程遠い今の福島の思いを更に深く歌うべく，クルターグ夫妻の指導を得て全力で取り組まれたもので，被災者も多く交えた多くの聴衆の心を深く打つものとなりました。

「言葉とはなに（Mi is a azó)」は，クルターグ（Kurtág György:1926-　在フランス）の代表作の一つで，1990年に作曲されました。クルターグは，ハンガリーの作曲家で87歳，21世紀前半最も活躍する作曲家・ピアニストとして知られています。クルターグは，晩年失語症に苦しんだアイルランド出身のフランスの劇作家，小説家，詩人のサミュエル・ベケット（Samuel Beckett：1906-1989）の最後の文「言葉とはなに」と，交通事故によって失語症に苦しんでいた歌い手モニョーク・イルディコー（Monyók Ildikó）とにインスピレーションを得て作曲に取り掛かかりました。原作はフランス語と英語です。原曲はシクローシュ・イシュトヴァーン（Siklós István）が訳したハンガリー語の歌詞に作曲されていて，モニョークは，世界の各地でこの作品を歌って大きな感動を与えました。

歌い手は語り，どもり，狂おしい悲鳴のように言葉を発します。音域も大変に広いのです。下はD，上は，Fisで2オクターブと長3度です。ベケットは，「言葉とはなに　むなしいもの　言葉とはなに　むなしいもの　なに　なに　なに　なに　なに」と同じ歌詞を繰り返しながら，人間にとって必要ではあるが消えてしまう言葉というものの意味を問い続けます。指揮をしながら弾かれるピアノは，ソロとほとんど同じ音を1本の指で弾くという特異な手法で作曲されています。

2012年3月，福島コダーイ合唱団は，ハンガリーの首都ブダペシュトにあるコダーイ記念博物館とバルトーク記念館でのリサイタルで合唱による初演を行いました。初演ではクルターグが降矢のために作曲したピアノ曲「花 人 ミヤコへ（Virág az ember Mijakónak)」をエピローグとして演奏しました。

ハンガリーでは，2011.3.11の東北大震災の地震・津波・原発事故・風評被害で苦しんだ福島の言葉で語り尽くせぬ思いを魂込めて演奏し，聴衆に深い感動を与えました。ハンガリーの演奏会評には，「言葉とは役に立たないと私たちに語るベケットの言葉をハンガリー語で朗唱をした演奏は，深く心を揺るがされる演奏だった。彼女たちの福島原発災害の経験が，まさしくこの曲のこの演奏を創ったと，考えずにはいられなかった。」とあったのです。

以下は，当日演奏のYou-tubeアドレスです。どうぞお聴きください。

☞　http://youtu.be/N8QRx77FTWY

2-2 新刊紹介　幼児の集団的・創造的音楽活動に関する研究
―応答性に着目した即興の展開―

和洋女子大学　駒　久美子

ふくろう出版，全 192 頁
5,250 円，2013 年 2 月刊行
ISBN: 978-4-86186-542-8

本書は，2011 年 3 月に日本女子大学大学院人間生活学研究科に提出した博士学位申請論文を，その論文に課せられた公開義務にもとづき，若干の加筆，修正を経て公刊したものです。

なお，出版にあたっては，独立行政法人日本学術振興会・平成 24 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金（研究成果公開促進費））学術図書の助成を受けています。

本書は，幼児教育分野においてはまだまだ希薄な創造的音楽活動に焦点をあて，幼児たちとの集団的・即興的な音楽活動の実践案を自ら提案・開発し，自ら幼児との活動を行いつつ，「応答性」を視点として，幼児の音楽的所産のモデル化を試みたものであります。本書の最も特徴的な点は，５年間に及ぶ幼稚園での実践活動から得られたフィールドノーツを詳細に分析し，幼児の創造した音楽構造の特質を理論化している点であります。また，幼児の創造的な音楽活動における社会的・文化的文脈に焦点を当てたこと，「応答性」への着目，すなわち「模倣」「対話」「偶発」といった「即興的な会話」に着目したことが大きな特徴です。さらに，幼児の創造的な音楽活動を実証的に検討するだけでなく，雑誌『幼児と教育』等の歴史的内容分析や，幼稚園教諭への意識調査を量的アプローチによって分析・解釈を行っており，これらは幼児期の音楽教育における創造性育成の現状を把握することのできるオリジナルデータとして本研究の基礎を形づくっていることも特徴であるといえます。

【目次】

序文

序章
第１章　創造的な音楽活動はどのように考えられてきたか
第２章　理論的枠組みと研究方法
第３章　幼稚園における集団的・創造的音楽活動の実際
第４章　幼稚園における集団的・創造的音楽活動の可能性
終章　　まとめと今後の課題

文献

2-3 新刊紹介　地域発信型の歌集『信州ふるさとの愛唱歌』

信州大学　齊藤　忠彦

ローカルな話題で恐縮ですが，長野県には県内の小学校，中学校，高等学校，大学の音楽科教員で構成している長野県音楽教育学会という組織があります。学会の歴史は古く，昭和 27 年に誕生し今年で 62 年目を迎えます。現在の会員数は約 600 名です。平成 24 年度，全日本音楽教育研究会全国大会（小・中学校部会）が長野市で開催されました。長野県音楽教育学会は，この全国大会の運営の母体組織となりました。『信州ふるさとの愛唱歌』は，同学会が企画・編集し，全国大会の記念として出版したものです。信州ゆかりの童謡・唱歌，民謡などの魅力を現代の子どもたちにもっと知ってもらいたいという願いを込めての発行となりました。

信州ゆかりの童謡・唱歌には，たとえば「ふるさと」「おぼろ月夜」（高野辰之作詞），「夕焼け小焼け」「どこかで春が」（草川信作曲），「しゃぼん玉」「てるてる坊主」（中山晋平作曲）などがあります。民謡には，「木曽節」「小室節」「ざんざ節」などがあります。そして，県歌「信濃の国」は，長野県民であれば誰もが歌えるということで全国的に知られています。このように信州ゆかりの楽曲は数多くあるのですが，これらを学校で扱う機会がめっきり減ってしまい，「信濃の国」でさえも歌えない子どもたちが増えています。その原因を考えると，音楽科授業時数の削減などがあげられますが，童謡・唱歌・民謡は古いものというイメージが定着してしまっていること，歌おうとしても，これらの楽曲を掲載している歌集が発行されていないという理由も考えられます。たとえば，「信濃の国」の楽譜（ピアノ伴奏入り）が掲載されている歌集が存在しなくなっていたのです。

そこで，『信州ふるさとの愛唱歌』の企画・編集に当たっては，これからの時代の子どもたちに伝承してほしい楽曲を精選すること，ピアノ伴奏を現代的な感覚で新規にアレンジすること，合唱アレンジを著名な作曲家に新規に依頼すること，掲載する楽曲の解説を入れるなどの工夫をしました。

現行の学習指導要領では，それぞれの地域に伝承されている歌唱教材を扱うことが強調されているのですが，それを実現するためには，先ずは，地域発信型の歌唱教材を整備しなくてはなりません。それぞれの地域で生まれ伝承されてきた音楽を，それぞれの地域で守っていくこと，そして，新しい形として発信していくことは，音楽教育に携わる私たちに課せられた使命の一つなのかもしれません。

最後に，『信州ゆかりの愛唱歌』の販売 PR になってしまうようで誠に恐縮ですが，チラシを掲載させていただきます。お問い合わせは以下まで。

saitota@shinshu-u.ac.jp（齊藤）

2-4 大韓民国の小学校と幼稚園の視察を通して

岡山大学　早川　倫子

少子化の進む韓国において，幼児教育はここ２～３年その制度と内容において急速に改革が進んでいる。そうした改革の中での実際を見てみたい。その思いで，小学校と幼稚園の視察を目的に，2013 年 3 月末に大韓民国を訪問した。

まず訪問したのは，ソウル市内の公立小学校。児童数は約 1900 人。他の地域では，少子化の影響で児童数が減っているが，この地域は特別であった。周りは新しい高層マンションによる団地になっており，その団地と小学校の敷地内は車が入れないように安全面・環境面で配慮がなされている。校内の施設は，伝統音楽室，音楽室，放課後音楽室などの部屋があり，ピアノ等の練習室も備わっている。また，PC 教室や英語教室等も複数設置されるなど，教育環境の充実ぶりには，大変驚かされた。そして，この学校で特徴的なのは，after school の多さである。平日の放課後と土曜日に，在校生を対象とした 160 を超える講座（外部の指導者・有料）が校内で開かれており，内容は，ピアノ，ヴァイオリンをはじめ，体育や英語，そろばんの教室もある。比較的裕福で教育熱心な家庭環境にある子どもたちが多く，また，共働きも多いため，子どもを預かるという目的と，心身を鍛えるという目的のために，開講されているようである。

次に，公立小学校附属幼稚園では，4 歳児のリズムアンサンブルと 5 歳児のチャンゴの練習の様子を参観させていただいた。4 歳児のリズムアンサンブルは，PC による伴奏に合わせて，簡易楽器（打楽器）を演奏するというものであった。活動の終了時には，楽器の写真（形）と名前を確認して片付けるように環境に工夫が見られた。また，5 歳児のチャンゴの練習では，歌詞をスクリーンに提示し，その意味を考えながら歌うこと，また口唱歌を行いながら楽器の練習をし，楽器を弾かない場合（数の都合で）は，膝打ち等をしながら練習する様子が見られた。伝統音楽は，幼・小を通して重要視されているようである。

2 日目に訪問したのは，私立大学の附属幼稚園。保育者の多くが修士課程修了者で，最低でも 3 年以上の保育経験を持った人材のみが採用されている。「幼稚園とは，特色のある教育をする場」と捉えてられており，特にこの幼稚園では想像力に重きを置き，「遊びながら」「考えながら（思考しながら）」「学びながら」ということを謳っている。各教室には，観察室（子どもたちからは見えない部屋）が設置されており，参観や研究への配慮がなされていた。また，公立の幼稚園と同じく，様々な活動が行えるコーナーが各教室に用意されていて，自由活動の際は，自分がどこに行って何をやりたいのか，意思決定をして活動に入るような流れとなっていた。

▲ ソウル市内の団地と小学校

今回の視察をとおして，やはり改革は進んでいるように感じた。特に，教育環境の充実ぶりには，目を見張るものがあった。また，教育内容や方法についても，幼児期から，教えたい（身につけさせたい）内容を，きちんと教えるという方向にあるように感じられた。2000 年以降に新しく作られた公立の小学校の多くには，附属幼稚園があるという。

これらのことからも，幼小連携の在り方や，幼児期と児童期の経験の在り方について，いくつかの課題を投げかけられた，いい機会となった。

2-5 日本音楽知覚認知学会春季研究会に参加して

岡山大学大学院　小田原　祐子
所司　都八紀
高橋　潤子

日本音楽知覚認知学会平成 25 年度春季研究発表会が，2013 年 5 月 25・26 日の両日，岡山大学教育学部北音楽棟にて開催されました。

研究発表会では，16 件の研究発表が 2 日間にわたって行われました。私たちはお手伝い係として「若葉マーク」（安全ピンで留める名札タイプです）を付けて参加し，研究発表を聞くだけでなく，受付や会場運営など学会の裏方として働きました。おかげで，発表者や参加者の方と多く接することができ，普段なかなか味わうことのできない裏方としての楽しさを感じることができました。
事前準備では，発表会場・休憩室・受付の準備に加え，会場案内のチラシを校内に設置し，大会に参加される方が 2 日間快適に過ごしていただけるように手配しました。
発表会場では，予備のパソコンを準備し，音響設備の準備，プロジェクターの確認等の会場設営を行いました。

当日は，学会事務局の方と受付をしたり，参加費や懇親会費の管理をしたり，発表会場や学内の案内，交通機関の手配，茶菓子の用意など・・・・・やらなければならない仕事が次から次へと出現し，皆で手分けをしながら処理していきました。一方，発表会場では，司会者の方と共に打ち合わせをし，タイムキーパーを務め，コンピュータのチェック，質問者へのマイク渡しなど，スムーズに研究発表が行われるよう走り回りました。こうした仕事をする中で，同時に，多様な研究発表に一生懸命耳を傾けました。初めて聞く分析ソフトの名前や斬新な視点からの実験に驚き，感銘を受け，多くの刺激を受けました。発表後の質疑応答では，活発な議論が行われ，そこからさらに新たな視点や疑問が生まれ，研究がより発展していく様を，肌で実感しました。

懇親会は岡山大学生協（ピーチユニオン）でおこないましたが，50 名以上のたくさんの方が参加され，自分の気になった発表者の方と話しをすることができ，研究発表では聞けなかった部分や，今までなさってきた研究など大変興味深いお話を聞くことができました。発表者の方だけでなく，他大学の大学院生の方とも交流を深め，研究仲間として良い関係を築く場となりました。岡山での開催ということで，ママカリや祭り寿司，岡山の地酒や岡山大学で作っている梅酒も用意され，懇親会は和気藹々と進みました。懇親会中盤では，研究会の恒例（！？）である自己紹介に戸惑いながらも，楽しい時間を過ごしました。今回初めて日本音楽知覚認知学会に参加し，音楽を知覚・認知するという視点からの分析，研究が発展していく様子を見させていただき，素晴らしい経験をすることができました。

学会発表では，大学院生の発表もあり，今後私たち自身の研究を進めていく上で，とても刺激を受け勉強になりました。今回経験したことを活かし，より一層努力していきたいと実感しております。お手伝いの点では，至らない部分や準備不足の点も多々ありましたが，皆様にご協力いただき，無事に大会を行うことができました。深く感謝致します。ありがとうございました。

岡山大学大学院（若葉マーク組一同）▸

2-6 日本保育学会第 66 回大会に参加して

白梅学園短期大学　長井（大沼）覚子

去る 5 月 11 日（土）・12 日（日），日本保育学会第 66 回大会が，福岡県の中村学園大学・中村学園大学短期大学部にて開催された。保育学会の会員数は約 4000 人で，そのために大会での発表件数も多い。「子どもの健やかな育ち」にかかわる多岐の研究テーマについて，シンポジウム（自主シンポジウムも含む），ワークショップ，口頭発表，ポスター発表，ビデオ実践発表などの発表形態の中で意見が交わされた。参加者にとっては濃密な 2 日間となっただろう。

今大会では，保育内容（主に表現）の検討をテーマとした分科会４つと，保育史にかかわる分科会に参加した。保育内容に関する分科会のテーマを紹介すると，乳児の音楽的行動の発達，幼児の即興表現におけるオスティナートの意味，表現活動への療法的アプローチの導入，オペレッタ，保育者養成校における音楽と造形の連携，表現活動における創造性と制約，音楽と身体表現，伝承遊び，糸を用いた音具による音遊びの可能性，楽器を用いた活動，子どもたちが偶然出会った虹との出会いから造形活動への広がり…などで，保育現場での試みから保育者養成にかかわる問題まで，熱い議論が展開された。

保育学会は音楽教育関係者のみならず，保育に専門的にかかわっている方々の立場や，他分野の視点から貴重なご意見をいただく，絶好の機会でもある。筆者は，木村充子会員，鹿倉由衣会員と共に，長唄を用いたワークショップの実践について，回を重ね，子どもとかかわる中で，徐々にプログラムを修正していった経緯を整理・分析し，報告した。発表に対して，座長とフロアからは，「文化（型・技術）とその学びのあり方，関係」についてどのように考えるか，また，自分たちの「変化」がなぜ起きたのか，さらに深く振り返ってみることが重要ではないか等，今後の研究の発展につながるご指摘をいただいた。文化と学びの関係を，子どもたちの姿の中から丁寧に読み取り，考察していくこと。それにかかわる実践者としての自分たちの行為も，丁寧に省察すること。これらのことを課題として再確認した学会となった。

2-7 音楽教育史学会第 26 回大会に参加して

聖心女子大学　村井　沙千子

去る 5 月 11 日（土），日本女子大学新泉山館にて開催された音楽教育史学会第 26 回大会に参加した。今回は 12 の研究発表と，「音楽教育史研究の課題と方法」というテーマでシンポジウムが行われた。日頃，歴史研究の難しさを感じている私にとって，今後の研究を進めていくためのヒントを得る貴重な 1 日となった。

私は，今川恭子会員との共同研究を「国民学校芸能科音楽の歌唱指導の一側面―概念，思想の教育における音楽の役割―」というタイトルで口頭発表をした。芸能科音楽の歌唱教材と国民科（国語，修身，国史）の教材の連携を表で示し，『教科書』と『指導書』（教師用）を参照しながら，連携の傾向や具体的な方法を明らかにした。本研究は資料を限定したため，他教科との連携における音楽的な役割は示唆にとどまったが，今後裏づけを行っていくための資料を紹介していただくことができた。また，今回は歌唱教材を中心に，他教科との連携を考察したが，国民科国語を中心に連携を見た方が核心に迫れるのではないか等，今後につながるご助言をいただいた。研究をするにあたり，視点の設定，データ・資料の選択，そしてそれらの取扱い等，課題は多くあるが，今回参加して得たことを取り入れ，今後も深く丁寧に取り組んでいきたいと改めて感じる機会となった。

3 報告・ご案内

3-1 平成 25 年度第 1 回常任理事会報告

日　時：平成 25 年 5 月 19 日（日）13：00～14：30
場　所：立教大学　12 号館 2 階会議室
出席者：加藤，有本，今川，伊野，今田，小川，奥，島崎，佐野，寺田，水戸，北山（記録）

加藤会長の挨拶に続き，今川事務局長から常任理事会で審議すべき事項の確認があった。

【審議事項】

1　平成 24 年度決算報告及び監査報告

島崎理事より平成 24 年度の決算報告があり，特に節約したわけではないが，予想以上に多額の繰越金が残った旨の報告があった。会計監査委員からの監査報告は，まとめて理事会でおこなうこととなった。

2　平成 25 年度事業計画及び補正予算について

島崎理事より平成 25 年度の補正予算が提示され，以下の点について説明があった。

(1) 正確な予算を立てるために，例年のように 6 月末（あるいは 7 月半ば）の会員数による予算案を第 2 回の常任理事会に提出する予定である。
(2) 会議費が僅かに赤字になったが，予算段階での会議費が少なすぎたためであり，会議費を 8,000 円増額した。
(3) 事務局経費の増額は JTB の大会参加管理システム「アマリス」を導入したことによる。
(4) 新たに必要となった教育関連学会連絡協議会の分担金を 1 万 5 千円増額した。
(5) 学会基金を 5 万円増額した。
(6) 研究出版基金から「倫理ガイドブック」の出版費を支出する予定で 90 万円を上乗した。

尚，加藤会長より「倫理ガイドブック」について音楽之友社に「企画書」を提出しているが，まだ返答がない旨の報告があった。

3　平成 26 年度事業計画及び予算について

島崎理事より平成 26 年度の予算についての説明があった。全体的には補正予算案と大きな違いはないが，会員名簿の発行についての方針を検討してほしいとのことであった。議論の中では（1）名簿の用途と 4 年間隔の発行について，毎年新入会員の追加情報を郵送していること，会員の入れ代わり人数から換算して 4 年に 1 度の発行が適当であること，他の学会でも同様の間隔であることの説明がなされた。また，(2) 次の発行予定が平成 26 年度になるので，次期執行部で判断して補正予算を組むことや 7 月に費用を計算して予算を上乗せしたらどうかといった意見が提出された。更に，(3) 名簿を作成した翌年に会長及び理事の選挙がおこなわれるとすれば，発行の意味は大きいといった意見も出された。

4　第 44 回大会について（含報告）

(1) 大会実行委員会から

今田理事より，4 月 29 日に大会実行委員会の顔合わせをし，会場設備等のチェックをしたことの報告があり，シンポジウムのパネリストと基調講演の概要についての説明があった。大会実行委員会では，展示ブースでの物品販売の方法について検討していること，弁当の注文も実施予定であること，大会参加費は昨年と同様，正会員は「事前申込：4,000 円，当日：4,500 円」とすること，理事会等の各種委員会は 10 月 11 日に弘前大学創立 50 周年記念会館で開催する予定であることが，報告された。また，今川事務局長より「アマリス」とのリンクの必要があり，大会ウェブサイトの作成をしてほしい旨，依頼があった。

(2) 企画担当理事から

寺田理事より弘前大学の施設について資料をもとに説明があり，昨年度と同等の規模の会

場が確保できること，加えて 10 人前後の部屋も多数活用できることが報告された。また，概ね例年と同様のタイムスケジュール案が提示され，シンポジウム・総会（「みちのくホール」），懇親会（「岩木ホール」）等，会場や設備が充実していることが紹介された。併せて，理事会企画プロジェクト研究「音楽教育学における『記録』」（２年目）の発表者３名の公募期間を６月 23 日まで延期すること，早急にホームページで広報する予定であることも報告された。

伊野理事から，理事会企画プロジェクト研究「社会へのまなざし，社会からのまなざし」（1 年目）について説明があり，シンポジストの案が示された。加藤会長から「学会として何をしていくのか」という視点がほしい旨の要望が出された。

(3) 院生フォーラムについて

大会実行委員会で大学院生を組織し，ニュースレターやウェブページを使って情報を発信する計画であることが報告された。また，ポスター発表予定者は８月中に申込を済ませること（会員に限る），大会記録として学会誌に発表者の名前とタイトルを掲載することが確認された。

(4) 大会覚え書きについて

前年と同じであり，これまでの反省に基づいてまとめられていることが報告され，併せて，大会実行委員会から会長の開催校への表敬訪問をお願いしたい旨の要望があった。

(5) その他

水戸理事から，近年の総会参加者の減少を懸念する意見がだされ，参加者を増やす工夫をしなければならないということで一致した。

5 来年度ワークショップについて

加藤会長より，来年夏のワークショップについて提案があり，場所を東京に戻して本多理事に担当を依頼することが承認された。

6 新公益法人法への対応について

今川事務局長より本学会の新公益法人法への対応について説明があり，総務担当理事（水戸・北山）を中心に方針を検討して総会で報告することとなった。

7 編集委員の交代について

加藤会長より，岡部芳広氏から権藤敦子氏に交代すること，期間は 2013 年 7 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日まで（岡部氏の残りの任期）とすることが報告された。

8 韓国音楽教育学会との交流について

韓国音楽教育学会より加藤会長に対し，８月８日・９日に韓国で開催予定の大会での，講演依頼があったことが報告され，意見交換の後，この依頼を受け，会長が現地を訪問することとなった。

9 その他

佐野理事より，立教ゼミナールを予定どおり８月に開催すること，会費は前回同様 3000 円としたいこと，理事会での承認後にホームページを立ち上げる計画であることが報告された。

＊次回常任理事会　平成 25 年 7 月 21 日（日）14 時～，立教大学。

3-2 平成 25 年度第 1 回理事会報告

日　時：平成 25 年 5 月 19 日（日）14：30～17：00
場　所：立教大学　12 号館２階会議室
出席者：加藤，有本，今川，伊野，今田，小川，奥，北山，佐野，島崎，寺田，水戸，
　　村尾，本多，安田，吉富，福井，山本，菅，南（記録）

加藤会長の挨拶に続き，近畿地区理事であった嶋田由美会員の移動にともない，理事会 ML 審

議による承認を経て村尾忠廣会員が後任理事（地区担当理事）に就任した旨，報告があった。

1　会務報告

今川事務局長より，平成 24 年 10 月 7 日以降の会務報告がなされた。
尚,『ニュースレター第 51 号』の「常任理事会報告」として平成 25 年 3 月 29 日まで掲載済みである。

10 月 7 日・8 日	日本音楽教育学会第 43 回（東京音楽大学）大会
10 月 7 日	平成 24 年度総会（東京音楽大学）
12 月 7 日	倫理綱領作成委員会（東京芸術大学千住キャンパス）
12 月 26 日	『音楽教育学』第 42 巻第 2 号，ニュースレター第 50 号発送
平成 25 年　2 月 8 日	倫理綱領作成委員会（東京芸術大学千住キャンパス）
2 月 17 日	平成 24 年度第 4 回編集委員会（東京芸術大学上野キャンパス）
2 月 23 日	平成 24 年度第 4 回常任理事会（聖心女子大学）
3 月 29 日	『音楽教育実践ジャーナル』vol.10-no.2，ニュースレター第 51 号発送
3 月 31 日	平成 24 年度会計決算
4 月 29 日	平成 24 年度会計監査会（事務局）
5 月 19 日	平成 25 年度第 1 回編集委員会（立教大学）
5 月 19 日	平成 25 年度第 1 回常任理事会・理事会（立教大学）

【審議事項】

1 平成 24 年度決算報告及び監査報告

島崎理事より資料にもとづいて説明があった。従前より雑収入に入れていた例会運営費の返金分について，次年度以降は雑収入に細項目を立てて記載することとなった。

2 平成 25 年度事業計画及び補正予算について

今川事務局長より資料にもとづいて説明があり，了承された。島崎理事より，資料にもとづいて補正予算について説明があり，了承された。なお，正会員数は 7 月の常任理事会時点での実数にもとづくこととした。また，AMARYS（アマリス：大会発表・参加 WEB 申込システム）の導入と，これに伴う大会運営費事務局経費の増額について説明があり，了承された。さらに，倫理ガイドブック刊行のために，研究出版基金（特別会計）の今年度積み立てを大幅に増額することが説明され，了承された。

3 平成 26 年度事業計画及び予算について

今川事務局長より資料にもとづいて説明があり，了承された。島崎理事より，資料にもとづいて予算の説明があり了承された。また，加藤会長より 4 年に一回の名簿発行について説明があり，了承された。

4 第 44 回大会について（報告も含む）

- 大会参加費について，正会員参加費は従来通り，事前振込 4,000 円，当日 4,500 円で了承された。
- 大会実行委員会と学会本部との間で取り交わす覚え書き（大会覚え書き）について，昨年度と同じ文面が了承された。
- 今田理事より，シンポジウムの内容についてカナダから講演者を招聘する旨説明があった。
- 寺田理事より，弘前大学の施設およびタイムスケジュールについて説明があった。また，プロジェクト研究について 2 年目となる「音楽教育学における記録」について「記録を残す」という趣旨でパネリストを公募する旨，説明があった。伊野理事より，プロジェクト研究 1 年目案として，資料にもとづいて説明があった。
- 加藤会長より，これまで主体が明瞭ではなく，そのために記録されてこなかった院生フォーラムを，実行委員会主体とし，記録に残すよう提案され，了承された。

5 第 45 回大会（関東地区）について
平成 26 年 10 月 25 日・26 日に，聖心女子大学で開催されることを確認した。

6 ゼミナールについて
佐野理事より，8 月 24 日・25 日に開催予定の立教大学ゼミナール（参加費 3000 円）について準備状況が報告された。

7 来年度ワークショップについて
加藤会長より，本多理事に企画を依頼し，東京で開催する予定であるとの報告があった。

8 会則改訂について
水戸理事より，資料にもとづいて提案されたが，文言等の修正あるいは倫理綱領との文言の統一などのため，7 月の常任理事会で再検討することとなった。

9 倫理綱領について
今川事務局長より，資料にもとづいて説明があった。今後，会則改訂の案件と連動させながら修正を施していくこととなった。

10 新公益法人法への対応について
北山・水戸理事によるワーキンググループで検討し，進捗状況を総会で報告することとなった。

11 参事について
学会参事（塚原健太・木下和彦・松本哲平・渡邊拓）に，新たに村井沙千子を加えて計 5 名とする旨が提案され，了承された。

12 会員情報の今後の方針について
今川事務局長より「学会が収集した会員の個人情報は，各種委員等の委嘱，学会誌の編集と査読，ニュースレターの編集，大会司会者の選出，ゼミナールやワークショップ等各種学会企画の企画・運営，その他学会本来の目的に沿った活動において必要が生じた場合に活用する。それ以外の目的には原則として使用しない。万が一目的外の使用の必要性が生じた場合は理事会の議を経て使用することもあるが，原則として学会活動に資することを目的とするものに限る」という前提で管理運営したい旨説明があり，了承された。

13 名誉会員について
名誉会員の取り扱いについて定まった見解がないため，今回は議題からはずすことで了承された。

14 新入会員および退会者について
今川事務局長から資料にもとづいて説明があり，承認された。 ▶ 14〜15 頁に掲載。

15 編集委員の交代について
岡部芳広委員から権藤敦子氏への交代が承認された。任期は 2013 年 7 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日までである。

16 韓国音楽教育学会との交流について
韓国より招聘のあった加藤会長のキーノートスピーチについて，了承された。

【報告事項】

1 各委員会報告
○編集委員会（佐野理事・本多理事）
大会報告に関して，『音楽教育学』に掲載される内容が大会プログラムに優先して正式のものであることが確認され，今年度から，『音楽教育学』掲載の大会報告における共同企

画のページ数は，6 ページを上限とすることが了承された。現在の掲載・投稿状況について報告があった。また，執筆者の希望により抜刷りが作成されるようになり，順調に運用されていること，過去の号についても希望があれば対応する方向であることが報告された。

▶ 17 頁に掲載。

○国際交流委員会（今田理事・菅理事）

今回のゼミナールで予定している英語のブラッシュアップにつながるような企画を，今後も検討していくことが報告された。

○選挙管理委員会

第 21 期会長・理事選挙の日程について，次のように報告された。

6 月 10 日（月）選挙公報の確認，選挙資格者名簿，会長・理事被選挙資格者名簿の確定，地区理事定数算出
6 月 15 日（土）選挙関係書類発送
7 月　1 日（月）投票締切（消印有効）
7 月　6 日（土）9：00～17：00 開封（開票）作業　※7 月 7 日（日）予備日

○学会賞審査委員会（加藤会長）

理事会後に，委員会を開催して検討することが報告された。

○音楽文献目録委員会

資料にもとづき，今年度の委員長が樋口隆一氏（留任）であること，委員会の財政状況，決算と予算承認があったことが報告された。なお，長野麻子委員の辞退に伴い，福田裕美委員が残任期間をつとめることが報告された。

2 地区例会報告

各地区担当理事より，平成 23 年度後半期の地区例会や平成 24 年度の計画が報告された。

九州（福井理事）：3 月 16 日（土）於：長崎大学
中国・四国（吉富理事）：3 月 24 日（日）於：広島大学
近畿（安田理事）：第 2 回，3 月 17 日（日）於：京都
東海　(南理事)：3 月 23 日（土）於：静岡
北陸（伊野理事）：3 月 9 日（土）於：新潟
関東（山本理事）：3 月 23 日（土）洗足学園大学
東北（今田理事）：3 月 9 日（土）於：福島大学
北海道（寺田理事）：昨年度夏に実施。すでに報告済み

3 ニュースレターについて

ニュースレター第 52 号について，小川理事より 5 月 31 日の締切に関する要請があった。

4 事務局からのお知らせ

事務局，HP，事務スタッフ及び学会誌のバックナンバー販売の報告があり，併せて，会費振込後のメール返信について確認がなされた。

＊次回理事会　10 月 11 日（金）弘前大学，時間は未定。

新入会員（平成 25 年 2 月 23 日理事会以降）：35 名

申し出退会者：37 名

【5 月 15 日現在　正会員数：1516 名　学生会員数：１名　特別会員数：３名】

3-3 プロジェクト研究「社会へのまなざし，社会からのまなざし」

伊野　義博（新潟大学）

第 44 回大会（弘前大会）では，新しいプロジェクト研究「社会へのまなざし，社会からのまなざし」を立ち上げ，現代社会が抱える様々な課題に対して，音楽教育研究は，何をどのように答えていくことができるのか，また，社会とどのようにかかわっていくことができるのか，といったことに対する問い直しを試みます。

現代は，音楽教育研究者がいやおうなしに社会と向き合わざるをえない時代といっていいでしょう。特に 3.11 以降の日本において，音楽と人間との関係性は，数々の＜問い＞となって私たちの眼前に立ち現れています。そしてこれらの＜問い＞は，学会員一人一人に，自身の研究と社会とのつながりについて改めて考えることを迫ってきます。音楽教育研究の成果はどのようにして社会に還元されるのか，実践の場はどのようなまなざしを音楽教育研究者におくっているのか。私たちは，何をどのように考え，行動したらいいのか。この際，音楽教育研究の有り様もまた問われることでしょう。

本プロジェクト研究は，シンポジウムの形をとります。一年目は，音楽教育研究と社会とのかかわりについて，他学会の取り組みに学んだり，研究と実践を結び付ける視点について検討したりしながら，＜応用の学＞としての音楽教育研究のあり方について考えます。今回のテーマは，学会員のすべてに直結する関心事だと思います。多数の参加をお待ちしています。

3-4 第 12 回音楽教育ゼミナール（立教ゼミナール）のご案内

第 12 回音楽教育ゼミナール（立教ゼミナール）のホームページが開設されました！！
下記のアドレスよりアクセスしてください。

☞ http://rikkyosemi.blogspot.jp/

ゼミナールは，国際的に開かれた若手研究者を支援する「**A：英語で研究を海外に発信しよう！**」と，実践者と研究者がともに学び合う「**B：最先端の授業研究を学ぼう！**」の２本立てです。

学校や保育等の現場にかかわる実践者，若手に限らない研究者，音楽教育を学ぶ学生，あるいは他専攻の学生‥‥**どちらかのプログラムを選び，ふるってご参加ください！！**

２本のプログラムの趣旨や概要，ならびに申込み手続き等につきましては，ゼミナールホームページをご覧ください。なお，本件に関するお問い合わせは，第 12 回音楽教育ゼミナール実行委員会事務局（onkyoiku.semi@gmail.com）までお願いいたします。

◆開催日：平成 25 年（2013 年）8 月 24 日（土）～25 日（日）

◆会　場：立教大学　池袋キャンパス

◆参加費：3,000 円（会員，非会員とも）

◆ゲスト講師について

A：英語で研究を海外に発信しよう！

1 日目に予定されている「英語で発表する意義」の keynote speaker として，台湾出身の Mimi Hung-Pai Chen 氏（RMIT University）が決定いたしました。現在オーストラリアのメルボルンに在住，RMIT University にて博士号を取得されています。アジア出身の研究者として共通の課題を抱えた Chen 氏から多くのことを学びたいと思います。基調講演の後，英語で発表する際のさまざまな問題点を Chen 氏と共に参加者全員で検討し，2 日目に繋げようと思います。

また 2 日目は，柴崎かがり委員（Roehampton University）に協力頂き，参加者の研究内容を実際に持ち寄り，それらを英語のプレゼンテーションに仕上げるまでのワークショップの開催を予定しています。

B：最先端の授業研究を学ぼう！

２日間とも，講師によるレクチャーと参加者による授業研究の実践から構成されます。
１日目の講師は，藤江康彦氏（東京大学）で，授業研究の最新の動向を教えていただきます。
２日目は，河邉貴子氏（聖心女子大学）を講師に迎え，「子ども理解につながる記録のあり方」について講演をいただきます。記録の取り方や様々な活用の仕方，子ども全体をとらえる現場研究のあり方を学びます。参加者による音楽科授業研究では，小学校の音楽づくりの実践，低学年の歌唱の実践などが提案されます。専門や立場，年齢をこえて議論をし，互いに多くのことを学び合いたいと思います。

ゼミナール実行委員一同（今田匡彦・疇地希美・小川容子・柴崎かがり・水戸博道・
石井ゆきこ・今川恭子・権藤敦子・佐野靖・塚原健太・村上康子）

3-5 編集委員会からの報告

編集委員会委員長　尾見　敦子

2013 年度第 1 回編集委員会は，5 月 19 日（日）に立教大学で開催されました。委員会での報告，協議内容は以下の通りです。

1．『音楽教育学』・『音楽教育実践ジャーナル』の進捗状況について
担当編集委員から進捗状況の報告があり，以下のことが確認された。
1）『音楽教育学』vol.43 no.1 は，「研究論文」2 本，「研究動向」3 本，例会報告，書評で構成され，5 月 20 日入稿，7 月 1 日発送予定である。
2）『音楽教育実践ジャーナル』vol.11 no.1 は，依頼原稿（「論文」4 本，その他 4 本），インタビュー，座談会，授業実践報告，特集投稿（「提案」1 本）自由投稿の構成で，6 月 25 日入稿，8 月 27 日発送に向けて編集作業が進行している。
3）『音楽教育実践ジャーナル』vol.11 no.2 の特集のテーマは「音楽教育と電子テクノロジー」である。編集担当委員から依頼原稿の執筆者案が提案され，了承された。

2．投稿原稿の採否について
1）『音楽教育学』の修正原稿 1 本の再査読と，新規「研究論文」1 本の査読が開始される。
2）『音楽教育実践ジャーナル』への新規投稿の採否が審議され，特集・自由投稿の「論文」は，2 本が再査読，5 本が不採択となった。特集・自由投稿の「報告」等は 4 本が修正の上で掲載見込み，2 本が不採択となった。

3．『音楽教育学』vol.43 no.2（大会号）の大会報告原稿について
1）大会プログラムの内容から変更（役割や所属等）があった場合，執筆者は提出原稿に変更点を付記することとなった（※原稿依頼時にこの点が明記される）。
2）共同企画の報告ページ数は，1 企画あたり 6 ページを上限とすることになった。

● 学会誌の過去の号の抜き刷りができることになりました。
執筆者自身が印刷所に直接連絡することになります。事務局にお問い合わせください。

●『音楽教育実践ジャーナル』への投稿申込書が改定されました。
投稿に際して，「ア．論文」もしくは「イ．報告・討論・提案・その他（　　）」のいずれかを選択していただくことになりました。採否の審議は，投稿者の選択した投稿の「種類」に沿って行われます。採択にあたって「イ．」の中で原稿内容に沿って「種類」の変更を提案させていただく場合があります。

● 注および引用・参考文献は，「本文と同じサイズ」で原稿を作成してください。
本文より小さいサイズの場合，規定枚数に収まっているかの判断が必要となり，分量の算出の結果，受理できないケースも起こりえます。どうぞご理解とご協力をお願いいたします。なお，投稿原稿は脚注ではなく，「後注」で作成してください（印刷時に脚注となります）。引用・参考文献は注の後になります。ホームページ上の「投稿の手引き」をご参照いただき，不明な点は，事務局内編集委員会事務局にお問い合わせください。

● 音楽教育研究におけるルールへの的確な対応が強く求められています。
『音楽教育学』vol.42 no.2 に「音楽教育と著作権」（山神清和氏，特別寄稿）が掲載されていますので，ご活用ください。投稿時のチェックリストに従って，「楽譜・図表・図版その他の著作権，版権に配慮している」等，的確な対応をお願いいたします。

3-6 選挙管理委員会からの報告

選挙管理委員会委員長　中嶋　俊夫

6 月 15 日付で，第 21 期会長選挙・理事選挙関係書類（投票用紙を含む）を会員の皆様に発送いたしました。投票の締め切りは平成 25 年 7 月 1 日（当日消印有効），開票は同 7 月 6 日（予定）です。選挙についてご不明な点がありましたら，選挙管理委員会（事務局内）までお問い合わせください。　☞　E-mail：onkyoiku@remus.dti.ne.jp

3-7 国際交流委員会からのお知らせ

国際交流委員会委員長　今田　匡彦

1. 音楽教育ゼミナール〈英語で研究を海外に発信しよう！〉
国際交流委員会では，今回始めての試みとして「音楽教育ゼミナール」に於いて〈英語で研究を海外に発信しよう！〉を企画致しました。実際に英語で海外に研究発信している Mimi Chen 氏（RMIT University），柴崎かがり委員（Roehampton University）の協力の下に期待される初回の成果を活かし，今後の日本の音楽教育研究の国際化に繋がる活動が継続されればと考えています。

2. The 9th Asian Pacific Symposium for Music Education Research
7 月 17 日から 19 日にかけてＡＰＳＭＥＲがシンガポールにて開催されます。今回で 9 回目となるこのシンポジウムには日本からも多くの研究発表が予定されています。詳細は以下のサイトをご覧ください。　☞　http://www.arts2013.sg/

3-8 学会賞審査委員会からの報告

学会賞審査委員会委員長　加藤　富美子

第 3 回学会賞（平成 23 年度～平成 24 年度）について慎重審議を行った結果，平成 25 年 5 月 19 日開催の「学会賞審査委員会」にて，第 3 回学会賞は該当なしという結論にいたりました。以上，ご報告させていただきます。

4 事務局からのお知らせ

事務局長　今川　恭子

■日本音楽教育学会第 44 回大会（弘前大会）の参加申込について
今大会から Web 上での大会参加申し込みとなります（7 月 1 日受付開始)。研究発表申込みをなさった方は，発表申込み時の登録情報をそのままお使いになれます。Web 申込ページにはじめてアクセスなさる方は，学会ホームページ掲載のご案内をお読みになり，下記 URL からお申し込みください（学会ホームページから申込ページにジャンプできます。申込手続きのマニュアルは学会ホームページから入手できます)。

☞ http://www.kayoo.info/JMES-home/index.php　（日本音楽教育学会ホームページ）
☞ https://amarys-jtb.jp/JMES-Hirosaki44/　（第 44 回弘前大会申込みページ）

Web 上で参加申し込みをなさると，手数料無料でカード，銀行振込，コンビニ店頭払いな

ど多彩な決済方法を使うことができます。その際，所定の期日までにお支払いいただくことが必要ですので，ご注意ください。なお，郵便振替用紙による参加費事前払込みは，今年度からなくなります。

正会員参加費 ： 4,000 円（当日払いの場合 4,500 円）
学生会員（学部生に限る）： 2,000 円（当日払いの場合 2,500 円）
懇親会費 ： 5,000 円

♪上記サイトから宿泊のお申し込みも同時にできます（申込と同時に予約成立となります）。
♪会員以外の方（臨時会員）も上記サイトから参加申し込みできます。
♪大会参加 Web 申込に関するお問い合わせは，以下の専用アドレスにお願いいたします。
☞ onkyoiku.office@gmail.com （Web 申込に関する問合せ専用）

■メールアドレスの登録

年度会費納入の確認作業を事務局で行なうと，会員のお手元に確認メールが自動送信されます。メールアドレスが未登録の方，アドレス登録済みで会費納入したのに確認メールが来ないという方は，事務局にご一報くださるようお願いいたします。なお，事務局開局時間の関係や業務の多寡によって，会費納入後確認メール送信まで２週間程度要することもありますのでご了承ください。

■学会誌バックナンバー販売について

『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』のバックナンバーを販売しております。今年度限定のお得なセット販売も行なっております。詳しくはホームページをご覧ください。
☞ http://www.kayoo.info/JMES-home/

◆ 事務局開局時間
月・水・金 9:00～15:00
時間外のご用件は E-mail（onkyoiku@remus.dti.ne.jp）へ

……【編集後記】……

先日，陶芸体験教室に参加して手びねりに挑戦しました。最初は「片口鉢」を作るつもりだったのですが，土の感触が何とも心地よく，粘土をこねているうちにどんどん変形して「大鉢」になってしまいました。焼き上がったら，何の料理を盛りつけようか，今からうきうきしています。

少し前の話になりますが，生まれて初めて，「竹の子」が「竹」になる瞬間を見ました。そのことに気づいた次の日から，この竹の子の前を通るのが楽しみになり…。小さな発見ですが，それだけで世界とのかかわり方が違ってくる。今更ながら，しかし，改めて気づいた新年度のスタートでした（今，その竹たちはぐんぐん伸びて枝が生え，葉をつけています）。

小川容子・長井覚子 記

……

平成 25 年度　日本音楽教育学会役員

会長：加藤富美子
副会長：有本真紀
常任理事：今川恭子（事務局長），伊野義博（企画）・今田匡彦（国際交流）・
小川容子（広報），奥忍（会計）・北山敦康（総務）・佐野靖（編集）
島崎篤子（会計），寺田貴雄（企画），水戸博道（総務）
理事：阪井恵・本多佐保美・山本幸正（関東），南曜子（東海），村尾忠廣・
安田寛（近畿），吉富功修（中国・四国），菅裕・福井昭史（九州）
会計監事：伊藤誠・杉江淑子
参事：塚原健太・木下和彦・松本哲平・渡邊拓・村井沙千子

平成 25 年度　委員一覧

編集委員会：尾見敦子（委員長）・荒川恵子（副委員長）
伊野義博・権藤敦子（7/1～）・岡部芳広（～6/30）・小中慶子・
塩原麻里・藤井浩基・永岡都・中地雅之・深見友紀子・佐野靖（常任
理事互選）・本多佐保美（理事互選）
国際交流委員会：今田匡彦（委員長）
菅裕・疇地希美・磯田三津子・柴崎かがり
学会賞審査委員会：加藤富美子（委員長）
村尾忠廣・坪能由紀子・尾見敦子・八木正一・佐野靖・伊野義博
選挙管理委員会：中嶋俊夫（委員長）
宮本憲二・鈴木慎一朗・村上康子・寺田己保子
広報委員会：小川容子（委員長）
志民一成・齊藤忠彦・長井覚子
音楽文献目録委員会
：木間英子・山原麻紀子・福田裕美
参　　事：塚原健太・木下和彦・松本哲平・渡邊拓・村井沙千子

【日本音楽教育学会事務局】
所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206
TEL＆FAX：042-381-3562
E-mail：onkyoiku@remus.dti.ne.jp
私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26
＊郵便物は私書箱へ